



第16回ちば Basic and Clinical Research Conference が開催されました

千葉大学医学部では令和5年2月2日に、あのはな記念講堂と Zoom とのハイブリッド形式で「第16回ちば BCRC」を開催しました。

ちば BCRC では、学生に「千葉大学の医学研究」の側面をお伝えしています。また、医学部スカラーシッププログラム（研究室配属）で得られた成果を発表する学生発表セッションもあり、今回は11名の有志の学生事務局員が本会の企画、運営に取り組みました。

本会の参加者は学生366名、教員・来賓等40名でした。学生座長の司会で行われた6題の学生発表は、研究内容の深さばかりでなく、「わかりやすく伝える」という面でも大変工夫されていました。いずれも素晴らしい発表でしたが、その中から2名の最優秀賞が選出されました。

また、研究室紹介として、疾患システム医学 眞鍋一郎教授、眼科学 馬場隆之教授の講演がありました。多臓器に関与し骨髄に記憶されるストレスのお話や、過去・現在の難治眼疾患と新規治療法開発への挑戦など、魅力的なお話を伺うことができました。

松原久裕医学部長より各学生発表への心のこもったご講評を頂き、スカラーシップ賞 奨励賞・千葉医学会賞授与が執り行われました。また、吉原俊雄 あのはな同窓会長から学生に向けたメールと、あのはな同窓会長賞の表彰をいただき、さらに3年次のポスター発表の中から3名の学生にスカラーシップ優秀ポスター賞が授与されました。

最後は整形外科 大鳥精司教授の座長による、種市洋先生（獨協医科大学医学部長・整形外科主任教授）の特別講演があり、脊椎外科の臨床現場についての非常に印象的なお話をいただきました。また、患者さんの疾患ばかりでなく、想像力をもって精神にまで関与する姿勢や、「大学病院は最後の砦」という意気込みで、多くの学生が感銘を受けていました。

（文責：坂本）



スカラーシップ賞の受賞式



BCRCでの発表学生に送られるあのはな同窓会長賞



種市先生の特別講演